

大須観音「馬の塔」由来記

永祿三年（一五六〇年）五月十九日、織田信長、田楽狭間たがはざまの戦に大勝、寡兵よく今川の大军を粉碎した。

これを聞き伝えた一国の在々村々まごまご、即日、われがちにと清洲城へ馬を馳せ、知るも知らぬも奉祝したというのが事の起りで、のち、いつの頃よりか、在々村々、一郷信仰の中心たる社寺を自体として、その祭礼行事の一として執り行われるようになった。熱田神宮の「馬の塔」、当寺の「馬の塔」然りで、江戸時代並び行われたが、今は共に廃絶した。

さて、当寺のは、もと当寺が中島郡大須の庄（のち、美濃に入る）にいた以来行われ、慶長末、今の地に移り来つても行われ、当寺のは由緒正しく、五月十八・十九日を以て盛大に行われた。（熱田のは、五月五日とかわり、端午の節句と交錯した。）

当寺のは、十八日いわゆる馬の塔とて、昔ながらの飾り馬を各町ごとに当寺内へ引き来り、十九日は礼馬らいばとて馬を人に変え、いわゆる各町町、町民自体の祭典で、町ごとに種々の工夫をこらして、終日、町をねって歩いた。素人コメデーのコンクールといったものだった。